

販売・物流における取り組み

理想科学は、環境負荷の低い輸送手段への転換（モーダルシフト）の推進や、繰り返し使用ができる梱包資材の採用などを通じて、販売・物流時のCO₂排出量や廃棄物の低減に取り組んでいます。

解説 モーダルシフト

一般に輸送手段を変更することをさしますが、とくに温室効果ガスや窒素酸化物の環境への排出をより少なくするために、トラックや航空機による輸送から鉄道や船舶による輸送に切り替えることをいいます。

モーダルシフト率＝国内における鉄道及び船舶による製品の委託輸送量 (t・km) ÷ 国内における製品の委託輸送総量 (t・km) × 100 (%)

CO₂の換算式

「環境省中央環境審議会地球環境部会目標達成シナリオ小委員会第3回資料」より、次の数値を使用しています。

トラック輸送 0.35kgCO₂/t・km

鉄道輸送 0.02kgCO₂/t・km

海上輸送 0.04kgCO₂/t・km

モーダルシフトの推進

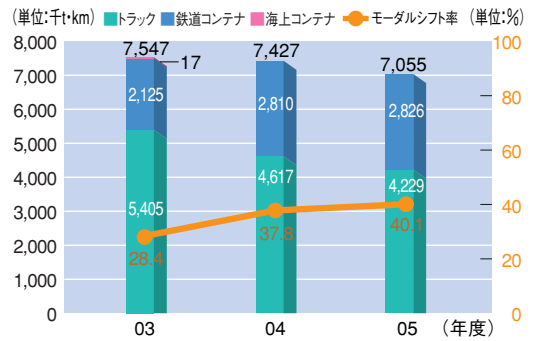
当社は、トラックによる幹線貨物輸送を、大量輸送が可能な鉄道や海運など環境負荷の少ない輸送手段に変更するモーダルシフト^{解説}を推進しています。

2005年度、宇部事業所（宇部出荷センター）では、「モーダルシフト率35%、2004年度比でCO₂排出削減率10%ダウン」*を目標に掲げて活動しました。その結果、モーダルシフト率は、40.1%、CO₂排出量を対2004年度比で15.0%削減し、目標を達成しました。

2006年度は、全社環境目標である「CO₂排出量を売上高原単位で2005年度比1%改善（対象：国内単体）」を達成するため、輸送においては2つの出荷センター（宇部、筑波）からの製品出荷における全てのトラック輸送を対象に、モーダルシフト率28%を目標として設定しました。この目標は、開始初年度である筑波出荷センターが確実に達成可能な目標として3%、宇部出荷センターの目標を現状維持として設定したものです。

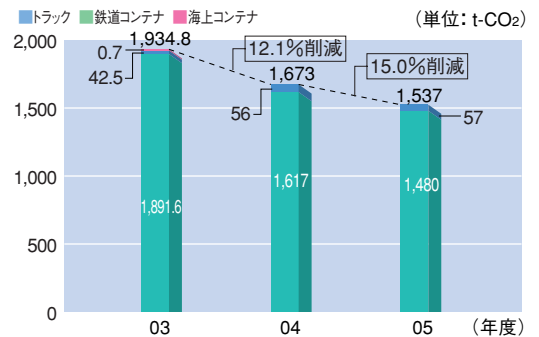
*500kmを超える長距離トラック輸送が対象

輸送実績



集計範囲：宇部事業所から製品を出荷する500kmを超える長距離輸送を対象にしています。

CO₂排出量



集計範囲：宇部事業所から製品を出荷する500kmを超える長距離輸送を対象にしています。

VOICE !



物流部 宇部出荷センター
センター長
高田 暢年

モーダルシフトの拡大をめざして

宇部出荷センターにおいて、モーダルシフトを導入したのは2001年のことでした。環境目標を検討していた際に、「モーダルシフトを導入してみたらどうか」というアドバイスを受けたことがきっかけで取り組みを開始しました。

導入から5年が経ち、モーダルシフト率、CO₂排出量の削減ともに順調に推移しています。このように取り組みの成果が目に見える形で表れていることはとても嬉しく、仕事のやりがいにつながっています。開始当初は、コストメリットがなかなか出ず、運用拡大を躊躇していた時期もありましたが、モーダルシフトが社会システムとして徐々に定着してくるなかでコストの面で課題も解消され、2004年度以降は運用拡大を続けています。2006年度からは、筑波出荷センターでもモーダルシフトへの取り組みが始まりました。先行して取り組みを始めた私たち宇部出荷センターのノウハウなどを共有し協力し合うことで、モーダルシフトをさらに拡大していきたいと考えています。2006年度の目標は、「両出荷センターのモーダルシフト率28%」ですが、これを超える成果をめざすつもりで取り組みたいと考えています。

共同配送の取り組み

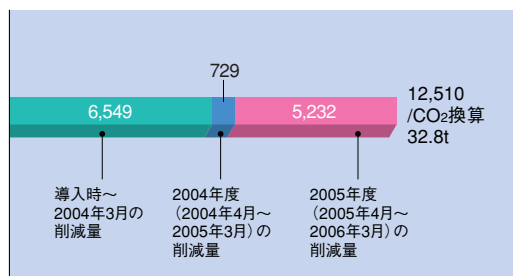
2003年10月より、クリナップ(株)と、最適配送計画支援・運行管理システム(SLIM) **解説** を活用した共同物流を実施しています。

2005年度は、2003年度比で軽油換算で5,232リットルの燃料の使用を削減できました。このシステム導入時からの累計では、12,510リットル(CO₂換算*で32.8t)を削減したことになります。

*環境省の「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案ver1.6)」により算出

共同配送による使用燃料(軽油換算)及びCO₂排出削減量

(単位: t)



システム導入
2003年10月



クリナップ便

低公害車の導入

地球温暖化防止や大気汚染を抑制するため、営業で使用する社有車を、従来型から低公害車に順次切り替えています。

2005年度末時点での導入台数は、全営業車両430台中、低公害車は353台となっており、導入率は、82.1%となります。2004年度比で、導入率は42.3%増と大幅に向上しました。

使い捨て梱包材の使用削減

当社は、リターナブルパレットや金属ラックを繰り返し使用することにより、使い捨てとなるダンボールや発泡スチロールなどの梱包材の使用量を削減し、物流時に発生する廃棄物の削減に取り組んでいます。

2005年度のリターナブルパレットの使用率は33%となり、これは梱包材を129.9t削減したことに相当します。



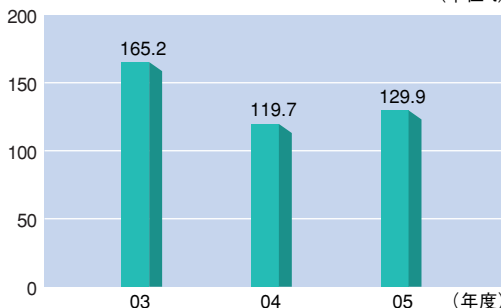
リターナブルパレット



金属ラック

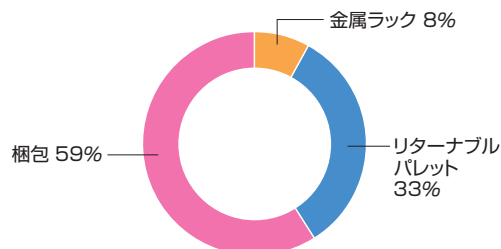
リターナブルパレットの使用により削減された使い捨て梱包材の削減量

(単位:t)



集計範囲： 筑波事業所から製品(機械)を出荷する場合は対象にしています。

製品出荷用梱包資材の内訳(2005年度)



集計範囲： 筑波出荷センターからの国内向け(営業拠点、お客様、販売店)出荷分に使用されるもの

解説 SLIM

SLIM (Strategic Logistics Information Model)

「SLP (Strategic Logistics Partners) 研究会情報センター」で配送情報などを集約、一元管理し、積載効率、運行効率の向上を図るもので、荷主企業が、支店・営業所、代理店、販売店などへの納品時間、荷量、容積などの情報をインターネットから確認することができる。(カーゴニュース第3071号より引用)